

## 第 52 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

ゼミ名	石田ゼミ	チーム名	ラ・フランス
タイトル	東証再編～プライム上場企業は本当にプライムか？～		
テーマ群	b) 財政・金融		
メンバー	岡虎太郎 河本空馬 西川祐樹 太田健登 森口柊樹		
研究計画内容	<p>【研究背景】2022年4月4日、東証1部・2部・JASDAQスタンダード・マザーズ・JASDAQグロースの5市場はプライム市場・スタンダード市場・グロース市場の3つの市場区分となった東証再編が行われた。村松（2021）によると、この東証再編が必要となった背景には、「①各市場区分のコンセプトが曖昧であり、多くの投資家にとって投資しやすい環境という面で利便性が低い、②上場企業の持続的な企業価値向上の動機付けの点で期待される役割を十分に果たしていない、③投資対象としての機能性と市場代表制を兼ね備えた指数が存在しない」といった三つの理由が存在する。また、海外の市場と比べた時に、市場がこれらの面で見劣りする。そのため、東証1部に集中していた企業を適正な市場区分に分けるための改編が行われた。しかし、結果として理念に対し現実は程遠く、骨抜きだと投資家から批判を受ける形となった。</p> <p>【研究目的】批判を受けている日本のプライム市場がどのような設定基準であれば、投資家に投資意欲を掻き立てるのか。また、日本のトップ市場にふさわしい市場となったのかということを検証する。</p> <p>【研究内容】プライム市場上場企業や予備軍・上場落ち企業の特質を調べた学術研究としては岡田（2022）があるが、プライム上場基準がいかにあるべきかを検証した学術研究は我々の知る限りまだない。そこで、我々は上場維持基準を基にして、現在、プライム市場に上場している企業が、本当にプライム市場（最上位市場）に適しているのかを比較・検証していく。そもそも設定基準がいくつかあるが、プライム市場の設定として、実際に、時価総額の基準をどこまで上げたら、海外市場よりも劣っていると言われる日本の市場が海外市場に追いつくことができるのかを導き出して行きたいと考えている。</p> <p>プライム市場において、ふさわしい設定基準を導き出す手順としては、まずアメリカ市場全体におけるニューヨーク証券取引所の企業数割合が優れていると仮定する。次に、ニューヨーク証券取引所の企業数は、アメリカ市場全体の何割に当たるかを調べる。さらに、求めた割合を日本のプライム市場にあてはめ、理想的なプライム市場の企業数を導き出す。そして最後に、導き出した理想的なプライム市場の企業数からふさわしい設定基準を考察していく。</p> <p>【期待される効果】東証再編の本来のあるべき姿を明らかにすることができる。</p> <p>【参考文献】村松裕子「2022年、東証の市場再編！なぜ？上場基準はどう変わる？」、カブコム, 2021.5.31, <a href="https://kabu.com/kabuyomu/money/622.html">https://kabu.com/kabuyomu/money/622.html</a> 岡田立子 「東証市場再編と経営者の利益調整行動」(『証券アナリストジャーナル』 第60巻第10号 2022年 70～73頁)</p>		